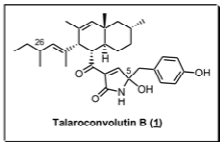


31P-0002

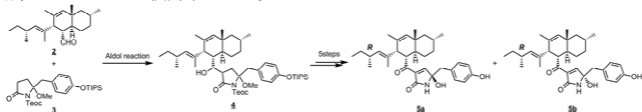
抗真菌性物質 Talaroconvolutin B の全合成

○北野 浩之¹, 塩野崎 宜裕¹, 内呂 拓実^{1,2} (¹東京理大薬, ²東理大戦略的物理製剤学研究基盤センター)

【目的】Talaroconvolutin B (**1**)¹⁾は 2000 年に河合らによって *Talaromyces* spp.より見出された、抗真菌活性を有する α -アシル- γ -ヒドロキシラクタムである。本化合物の平面構造は既に決定されているものの、その絶対立体化学は確定されていない。そこで演者らは、**1**の全合成を通じて、その化学構造を確定するとともに、その生物活性との関係を解明することを目的として研究を行った。



【結果】デカリン骨格をもつアルデヒド **2** とラクタムフラグメント **3** をアルドール反応により連結した後、さらに 5 段階の反応を経て、望みの α -アシル- γ -ヒドロキシラクタム **5a** および **5b** を得ることができた。5 位炭素原子の立体化学に由来するこれら 2 つのジアステレオマーの ¹H-NMR および ¹³C-NMR スペクトルは、いずれも **1** について報告されているものとは一致しなかった。このことから、**1** の 26 位炭素原子の立体化学は *S* 配置であると予想した。現在、これらの化合物の合成についてさらに検討中である。



1) Kawai, K. *et al.*, *J. Nat. Prod.* **2000**, 63, 768-772.